

お客様の安心は、 堅実な経営から。

時代に流されない安定した経営を心がけ、
安心してお取引いただける収益基盤の
確立を図っています。



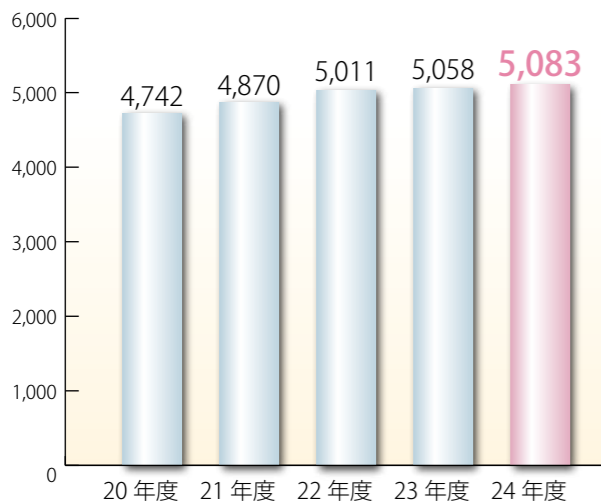
平成 24 年度の事業概況

平成 24 年度は、地域金融機関の原点を再認識し、信用金庫の強みを活かした地道な活動を通じて、お客様との絆の強化を図るとともにお客様から信頼され、御満足いただける人材育成に取り組まれました。特に、「地域密着と顧客重視への取組み強化」、「経営効率の向上と経営基盤の強化」、「顧客満足度の向上と顧客保護管理態勢の強化」、「真に役立ち喜ばれる人材と組織づくり」等を重点施策として活動いたしました。

預金積金

ボーナス預金や年金定期預金など個人預金を中心に「近くて便利・親切な対応」といった信用金庫の強みを生かした地道な預金募集活動に取り組まれました結果、預金残高は対前期末比 25 億円増加して、5,083 億円となりました。

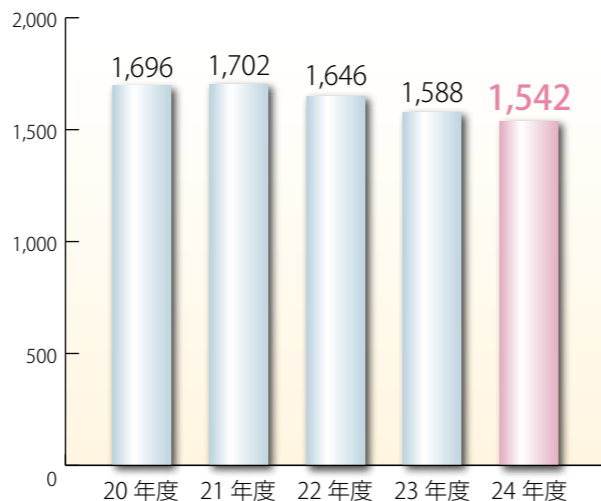
▶ 預金残高の推移 (単位：億円)



貸出金

お客様のニーズにお応えした融資商品を取り揃えて積極的に取組みましたが、景気低迷を反映して設備・運転資金とも資金需要に乏しく、融資残高は対前期末比 46 億円減少し、1,542 億円となりました。また、「中小企業金融円滑化法」の趣旨を踏まえ、お取引先への真摯な対応と積極的な支援に努めました。

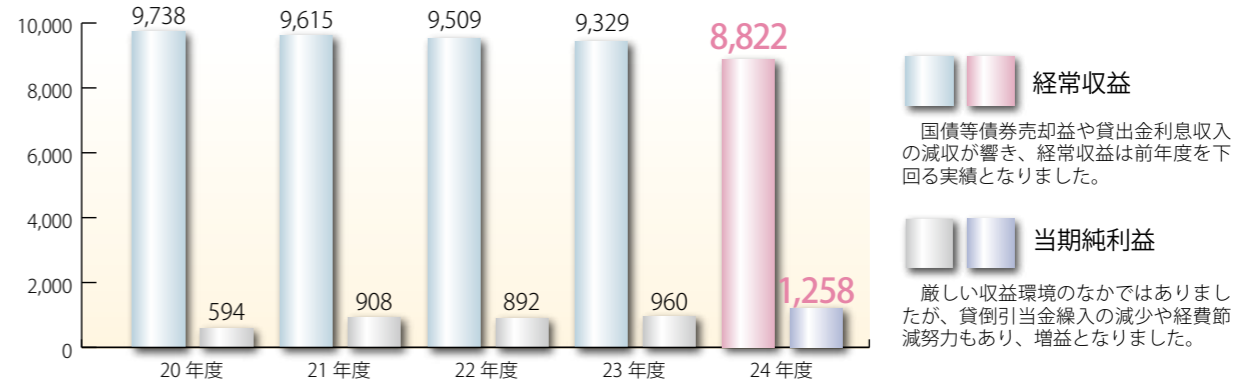
▶ 貸出金残高の推移 (単位：億円)



損 益

貸出金残高の減少と利回り低下により貸出金利息収入の減収となり、国債等債券売却益の減少もありましたが、貸倒引当金繰入の減少や預金支払利息も減少し経費節減の努力もあり、当期純利益は 1,258 百万円を計上することができました。

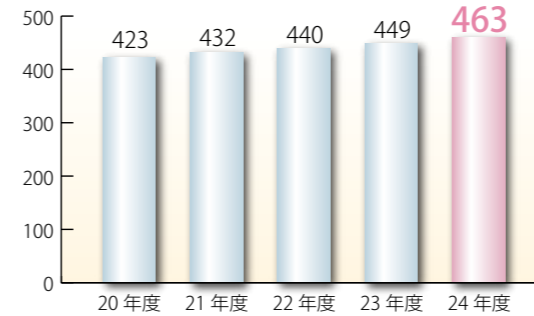
▶ 経常収益・当期純利益の推移 (単位：百万円)



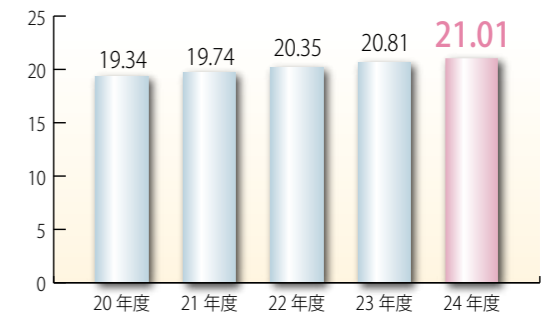
自己資本

当金庫の健全性・安全性は引続き高い水準を堅持しており、お客さまからの普通出資金や適正な内部留保等により自己資本比率は 21.01% となりました。今後も、堅実経営を基本として、一層強固な財務体質の構築を目指してまいります。

▶ 自己資本額の推移 (単位：億円)



▶ 自己資本比率の推移 (単位：%)



「基本項目」及び「補完的項目」から構成されています。有価証券の評価差損にかかる特例措置に基づき計上しております。(詳しくは、自己資本の充実の状況等の項をご参照下さい。)

金融機関の健全性を示す重要な指標のひとつで、国内金融機関は 4% 以上が求められていますが、当金庫は基準を大きく上回っており高い水準の健全性を維持しています。

主な経営指標の推移

(単位：百万円 %)

		平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
利 益	経常収益	9,738	9,615	9,509	9,329	8,822
	業務純益	1,897	2,196	2,457	2,638	2,637
	経常利益	953	1,346	1,257	1,695	2,047
	当期純利益	594	908	892	960	1,258
残 高	出資総額	1,174	1,176	1,175	1,177	1,176
	出資総口数 (千口)	2,348	2,352	2,351	2,354	2,353
	純資産額	39,980	44,439	45,930	48,164	52,526
	総資産額	521,908	539,253	554,442	559,673	567,080
	預金積金残高	474,264	487,088	501,175	505,848	508,383
	貸出金残高	169,620	170,285	164,611	158,823	154,209
	有価証券残高	263,821	312,181	295,620	300,877	311,614
	単体自己資本比率	19.34	19.74	20.35	20.81	21.01
	出資配当率	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0
	出資 1 口当たりの配当金 (円)	30	30	30	30	30
	役員数 (人)	15	15	15	14	15
	うち常勤役員数 (人)	10	10	9	9	10
	職員数 (人)	384	388	388	384	372
	会員数 (人)	32,309	32,547	32,712	32,835	32,952

(注) 総資産には債務保証見返勘定を含んでいます。